



発行 アジア平和連合(APA)ジャパン

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-15-3F P P研気付 Tel/Fax: 03-5273-8362 e-mail: ppsg@jca.apc.org
維持協力費 年間1口2000円(団体はできれば2口以上)

特集「第4回世界社会フォーラム」

2004年1月16日～21日 インド・ムンバイ

「平和」が基調となった世界社会フォーラム

武藤一羊●APAジャパン

1月にインドのムンバイで開かれた第4回世界社会フォーラム(WSF)は全世界から10万人が参加する画期的な民衆運動の集まりになった。地域運動から環境運動、労働運動から女性運動、インドのダリットや先住民の運動から欧米の平和運動まで、「もうひとつの世界は可能だ」という見通しを共有するあらゆる人びとが合流して、数万人の大集会から百人規模の討論会まで、6日間で実に1200の集まりを開いた。だが討論だけではなかった。工場跡地の広大な会場は、一日中インドを始め各地の草の根の人びとのデモと交流の巨大な場となったのである。

このWSFの基調が「平和」であったことは特筆される。2001年、ブラジルのポルトアレグレで開かれた第1回WSFの焦点は、新自由主義的グローバル化がもたらす社会経済的破壊への抵抗だった。9・11事件と米国の戦争のもと、グローバル化と戦争の結びつきが強く意識されるようになり、昨年の第3回では、社会運動団体は宣言「新自由主義と戦争—軍事主義に抗して」を出して、両者の結びつきを強調した。

だが今年のムンバイでは、「平和」が全体の基調音となったのである。開会に続く最初の2万人の大集会は反戦運動グローバル総会として「軍事主義、戦争、平和」のテーマで開かれた。その背景には、米国のイラク侵略への世界的な反戦運動の立ち上がりがあった。ムンバイでは平和をめぐる活気ある集会が数多く開かれた。なかでも19日、テントの中で開かれた「反戦運動グローバル総会」の戦略会議では、世界的な平和運動の活動家が初めて一堂に会して運動戦略を練った。200名ほどが参加したこの集会では、欧米やラテン・アメリカだけでなく、イラクやパレスチナ、中央アジア、アフリカを含む世界各地の活動家からの報告、具体的行動提案が、一日ぶっとおしで議論された。討論は米英軍によるイラク占領を止めさせる問題を焦点に、昨年の反戦運動の波を上回る世界的行動をつくりだそうと

いうところに絞られていった。

また2年前インターネットで「落選運動」を成功させた韓国は、グローバルなブッシュ打倒キャンペーンを提案し、国際的相談会が持たれ、現在ヨーロッパも加わって最終提案が議論されている。

ラテン・アメリカとヨーロッパ中心だったWSFの運動が、ムンバイで、アジア、とくにインドの底辺と出合ったことの意味は大きい。ここで「平和」は、「グローバル化」と並置される個別課題ではなくなり、「もう一つの世界」の中身としての新しい広く深い意味を獲得したと私は感じている。

2万人の大ホールで開かれた「戦争は女たちに敵対する、女たちは戦争に敵対する」という大集会でインドの作家A・ロイ、エジプトの作家サダウイなどは「女性たちはグローバルな帝国主義に抵抗するだけではない。足元のコミュニティで家父長的なテロと暴力に晒されている。その文化、〈伝統〉を変えるために闘うことと、平和を求め帝国主義に反対することは一体のものなのだ」という強烈なメッセージを発した。平和とは、戦争が起こる以前に戻ることはない。インドには、アジアには、もともと平和はなかったのだ。アメリカの戦争から原理主義、家父長制の暴力にいたるこのグローバルでローカルな暴力的関係を、下から根本的に作り変え、新しい関係を創っていくことが反戦・平和の中身なのだ。インドだけではなく、日本でもそうなのではないか。

韓国米軍基地国際相談会から世界社会フォーラムへ

笠原 光●ピープルズ・プラン研究所

2003年12月1日、2日とソウルでアジア平和連合と韓国の米軍基地をとりもどす全国連合の共催で「米軍基地国際相談会」が開かれた。この相談会には、各国リソースパーソン、韓国の団体からの参加者、メディア関係者、APA事務局、事前に行われていたARENA主催のリージョナルワークショップに参加した若者活動家を含め、約40人が

参加した。ホスト国である韓国からは、前記連合のキム・ヨンハン議長と書記長をはじめとする主要メンバーが参加したほか、APAのメンバーでもある平和をつくる女たちの会、環境運動（米軍基地の環境汚染に取り組んでいる）、米軍による犯罪を根絶する連合、参与連帯など、主要組織の代表が参加した。このほかに、沖縄、フィリピン、パキスタン、インドネシア、タイ、米国からのリソースパーソンが、各国で米軍基地がこれまでに地域住民に与えてきた影響、9・11後の米軍勢力再編成の進行状況、それに抗する民衆運動の現状分析・課題が報告された。これらの報告をもとに、参加者一同は各国に置かれている米軍基地・米軍勢力と「テロに対する戦争」の名の下に行われているアメリカの軍勢力再編成に強く反対していくこと、今後、米軍基地問題をAPAの最優先取り組み課題とすることで合意した。また、APAはこの会議での議論を元に、1月にムンバイで行われたWSFで①アジア各国の基地・米軍勢力レポートの配布、②国際反基地会議への積極的参加、③ブッシュの再選を阻むグローバルキャンペーン実行に向けて具体的議論を行った。

韓国での相談会は、APAが、米軍事基地を抱え、「悪の枢軸」と名指しされた北朝鮮を次のイラクにしないための取り組みを続ける韓国との連帯をつくる大きな第一歩となっただけではなく、ここでの議論をWSFに持ち込み、アジアからの発信、また、アジアと世界をつなぐ具体的活動へと発展させることができたという点で非常に有益であった。

3・20を戦争と占領に反対するグローバルな抵抗の日に

国富建治 ● 戦争協力と有事立法に反対する
全国FAX通信

インド・ムンバイで開催された第4回世界社会フォーラムは、昨年の全世界で空前の規模で拡大したイラク反戦運動の中心を担ったグループが一同に会する場ともなった。1月16日に3万人以上を集めて行われた開会集会でも、インドのアルンダティ・ロイ、イラクのアル・リカービ、イギリスのジェレミー・コービンなどがスピーカーとなり、米英のイラク侵略・占領、グローバルな軍事化への闘いが強調された。

連日行われた大小の集会、セミナー、会議でもあらゆる角度から戦争と社会の軍事化に反対するネットワークの形成が構想された。1月18日には日韓の参加者60名以上が共同して会場内で「日韓両政府のイラク派兵反対」を訴える集会とデモを行い、大きな注目を集めた。

そして1月19日に開催された反戦運動総会では、全世界の参加者により、情勢の評価をめぐる討論や、各国での取り組み、「イラク戦争を裁く民衆法廷」、「米軍基地撤去キャンペーン」、「占領監視センター」、「パレスチナへの市民訪問団」などのイニシアチブが紹介された。

この全1日かけた討論で、3月20日を戦争と占領に反対する全世界行動デーとすることが確認され、それは翌

20日の社会運動団体・大衆組織の呼びかけの中でも、当面の行動の焦点として打ち出された。日本でも3月20日に東京・日比谷野音でワールド・ピース・ナウ実行委員会が呼びかけた大集会が行われる（午後1時）。

全世界を結ぶ反戦のパワーを登場させよう。

APA主催ワークショップ「アジアにおける9・11後のアメリカ軍勢力再編成と女性」報告

笠原 光 ● ピーブルズ・プラン研究所

「（アジアで平和と正義を促進するには）軍国主義的、国家主義的、男性中心主義的理論と『国家安全保障』や『国際安全保障』に基づく支配的な体制を、非軍事化され、平和を愛し、フェミニズムを支持する普遍的で民衆中心の体制によって置き換えられなければならない」（アジア平和連設立総会宣言より）

9・11後、世界各地で盛り上がり続けるを得ない反戦・平和運動だが、アジア平和連合は、これら平和運動がアジェンダと実行の中にどうジェンダー視点を内包・反映させることができるのかを大きな課題と挑戦として今回のワークショップを企画・実施した。

このワークショップは、パキスタンのグループによるエネルギーな音楽で幕を開けた。続いて、笠原からAPA設立者の一人でもある松井やよりさんを偲ぶスピーチ、細井明美さんが女たちの戦争と平和人権基金からのメッセージを伝えた。

発言者は、発言順にKamla Bhashin（インド）、Gwyn Kirk（アメリカ）、高里鈴代（沖縄）、Gyong-Lan Jung（韓国）、Young-Nim Yu（韓国）、Samira Ali Gutoc（ミンダナオ）、カシミール、Nighat Said Khan（パキスタン）。いずれも女性に対する暴力や女性の人権のために势力的に活動が続けてきたフェミニストたちである。

Kamla Bhashinは、持ち前の「観客を呑む」スピーチで、既存の「安全保障」の概念は女性たちの安全を無視するだけでなく、それを踏みにじってきた。そして今、「アメリカン・ドリーム」が女性たちに「悪夢」となって降りかかっている。これまでの「国家のための安全保障」が女性の安全保障を根底に持った「人びとの安全保障」の概念に置き換えられる必要があると指摘。

続いての各国スピーチから再確認されたのは、9・11は単にこれまでの女性に対する抑圧や暴力を悪化させているに過ぎないということだ。冷戦時代から超大国のパワーゲームに翻弄されてきたアジアが、今、アメリカの一極体制による世界植民地政策の中に確実に組み込まれ、「ブッシュ志向」の各国政策と反アメリカ感情の噴出はアジアの軍事化と家父長的社会システムを再補強し、女性たちはその抑圧と暴力の構造の只中にいる。

午後に行われたストラテジーセッションでは、各国・地域の女性たちが取り組むべき優先課題が割れ、国際女性デーの共同行動の具体的見通しは立たなかったが、米大統領選挙の中間層を狙って、今回のワークショップの報告を

基本に、アジア地域でアメリカの政策が女性にどのような影響を与えている(きた)かについて各国レポートをまとめ、Gwyn Kirkがアメリカ国内で持つネットワークを通じて、情報を広めることが決議された。ただ、これが、逆に「ブッシュ志向」や単に「反アメリカ」を振りかざす人びとに利用されないよう、レポートの方向を検討する必要がある、今回のスピーカーとAPAMEMBERを入れたメーリングリストを立ち上げさらなる議論を進める。

今回のワークショップの準備過程を通じて、アジア平和連合が冒頭で述べた課題の達成するにはまだまだ時間・議論・分析が不足していると感じたが、今後も皆で模索を続けていきたい。

世界社会フォーラム国際反基地会議報告

武藤一羊●APAJAPAN

インドのムンバイで開かれた世界社会フォーラム(WSF)の自主企画として、国際反米軍基地会議が開かれました。おそらく歴史上初めてのものでしょう。呼びかけ団体は各大陸を覆う20団体(APAを含む)、Focus On the Global South(<http://www.focusweb.org/>)のハーバート・ドセナ(Herbert Docena)さんが精力的に調整と組織に当たりました。31ページにわたる詳細な報告書がハーバートから届いています。

日本列島からは、沖縄の高里鈴代さんがパネリストとして参加したほか、APAJAPAN、日本平和委員会、ピースポートなどが参加しました。残念ながら日本本土各地の反基地運動からムンバイWSFに参加された方はいませんでした。世界各国からの米軍基地の有様とそれへの闘いの報告は圧巻で、それぞれの参加者が米軍基地網のあまりの巨大さに顔を見合わせて驚いたというのが実態です。報告と議論は空理空論でない実践的なもので、会場は熱気に包まれていました。

以下、ハーバートの報告書からかいつまんで報告します。

《概要》

日時：1月19日(報告セッション)～20日(戦略セッション)

参加者：34カ国(アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、キューバ、エクアドール、フランス、ドイツ、ギリシャ、香港、インド、インドネシア、イタリア、日本、韓国、キルギスタン、モーリシャス、オランダ、ニュージーランド、ノルウェイ、パキスタン、フィリピン、プエルトリコ、セイシェル、スイス、タイ、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国)から122名(反基地運動活動家と環境、人権など他の運動の活動家)

第1セッション：米国軍事基地の存在とグローバル化の関連、外国に軍事基地を置く米国の意図の分析、米軍基地への反対運動の現状など。20人のパネリストが報告。沖縄から高里鈴代さんが報告。本土からは平和委員会。

第2セッション：グローバルな反基地ネットワークの目的、具体的なプロジェクト、共同行動についての討論。旧来の基地だけでなく、「米国の軍事的プレゼンス」が戦略再編の中で新しい意味を持ってきていることが確認された。その上で、(1)米軍の活動を世界的に監視する、(2)米軍の存在への抵抗が世界的にどこで行われているか、地図をつくる、(3)反米軍基地のメーリングリスト(ML: nousbases@lists.riseup.net)の拡大強化、(4)3月20日国際反戦デモへの全面的参加、(5)世界的な反基地行動日の設定、などが合意された。

《各国報告の一部》

——ラテンアメリカでは、「麻薬戦争」を通じて地域への米国の軍事的影響がじんわりと強まりつつあるほか、米軍施設を拡充する政治的動きが活発化。

——ヨーロッパでは基地がイラク戦争に直接に使われているほか、各国領土内に米国の大量破壊兵器の配備が秘密裏に行われている。

——島ぐるみの基地化のため故郷からモーリシャスに強制退去させられたディエゴ・ガルシアの住民は社会的経済的に劣悪な状況に置かれ、帰還を要求して闘っている。

——キルギスタンでは、米軍は公衆の議論もないままいきなり進駐、米国の謳い文句とは逆に人権状況は悪化。米軍が抑圧的政権の支柱になっている。

——フィリピンでは、一度米軍基地を撤去させたのに、新しい協定(VFA)で全国どこでも米軍が活動できるようになり、新たな軍事施設の建設への圧力も掛けられている。

——日本と韓国からは、大規模な米軍と米軍基地の存在、市民への米軍人の暴力行為、土地取り上げ、環境汚染、米軍人の犯罪への不処罰などが報告され、これらへの長年にわたる闘争が報告された(報告の一部は録音されていて、<http://india.indymedia.org/en/2004/01/208751.shtml>で聞くことができる)。

《共同プロジェクト、共同行動》

(1) 調査研究・教育

米軍基地とはどう定義されるか、米軍の存在は目立つものから目立たぬものまであり、米軍公表資料では不十分だが、2003年の「基地構造報告」だと、130カ国に720の海外基地がある。うち120カ所、40カ国は大きい基地。その他国内と属領に6000基地。

- A. これらの基地の活動を、性的虐待、買春、性的暴力、人身売買、環境破壊、人権侵害、植民地化、宇宙空間の軍事化など多面的に調査、交流する必要。
- B. 米軍基地反対闘争の成功した経験、どのように闘争が人びとを強めたかなどをモデルとして学びあえるようWebサイトの活用。
- C. 米軍基地問題を他の運動、世界的平和と正義への運動、反グローバル化運動、非軍事化の運動、武器取引反対運動などと結びつける必要。
- D. なぜ各国政府が米軍基地を受け入れ、米国に協力するのかの解明。米国による経済的圧力の利用など。

E. 世界的な反軍事基地運動の一覧表の作成。

(2) コミュニケーション・大衆化

- A. 米軍基地とそれへの抵抗運動情報Webサイトの立ち上げ(各国語)。そこには反基地だけでなく関連する反グローバル化などその他の運動の情報、被害者の訴え、世界的な米軍の動きの情報などを盛り込む。
- B. メーリングリスト。主要な連絡網として使う。ハーバートが管理する上記MLの活用。

(3) 行動・キャンペーン・連帯強化

- A. 世界的反基地行動日の設定。米国独立記念日である7月4日の提案に賛成が多かったが、保留もあり討議継続(独立宣言に反外国基地を示唆する文言があり、それを米国に対して使うという趣旨)。2月第2週までにMLで意見を集約(武藤はもう一つの形のアメリカン・スタンダードの押し付けになるとして、強い保留意見を出しました)。
- B. 3月20日のグローバル反戦行動への全面参加。
- C. ディエゴ・ガルシアへの抗議船団の派遣(30年前に島から追放されたチャゴス人の苦境を世界に訴えるため。モーリシャスのチャゴス支持グループが調整役を引き受ける)。
- D. 今回の会議の成果を踏まえて、もっと大規模で、たっぷり2〜3日とった世界反基地会議を開く必要が感じられた。もっと多くの基地反対のグループが集まり、どのような立場でまとめられるかを議論し、共同行動の戦略をつくるのが目的。会議の時期として、いくつかの案が出された。
- (a) G8サミット、米国・ジョージア、2004年6月
- (b) 軍事活動と環境正義についての国際ネットワーク会議、韓国・ソウル、2004年7月
- (c) ボストン社会フォーラム/平和と人権ヨーロッパネットワーク会議、米国・ボストン、2004年7月23〜24日
- (d) 米州社会フォーラム、エクアドル・キト、2004年7月25〜30日
- (e) 島嶼小国サミット(SIDS)、モーリシャス、2004年8月30日〜9月3日
- (f) 東アジア・北米・プエルトリコ女性ネットワーク会議
- (g) ヨーロッパ社会フォーラム、ロンドン、11月
- (h) プエルトリコ、ヴィエケス、いつでも
- (i) ギリシャ、いつでも。

(4) 今後の調整機関

今回の反基地会議を組織した組織が当面調整機能を担う。これは開かれた場なので、参加希望グループはFocus On the Global South (APAメンバー) のハーバート・ドセナ(Herbert Docena)さん(herbert@focusweb.org)に通知すればよい。

以上、ムンバイでの国際反米軍基地会議のあらましで

す。

その後、反基地国際行動日についてML上でさまざまな意見が出され、7月4日にはかなり異議が出されています。行動日設定というのは各国の事情含めて積み上げなければならないので、まず世界的に行動しようという考えを共有することが出発点だと思います。

私は、いま初めて開かれた世界的な反米軍基地の空間に、日本の私たちが踏み込んでいくことが何より大切と考えています。とりあえず、上記の'nousbases'のMLに多くの方が加わっていくことが第一歩だと思います。

※ WSF に関する情報は<http://www.wsfindia.org/>を参照。

メーリングリスト〈nousbases〉への参加方法

下記のURLにアクセスし、登録するe-mailのアドレスを入力して[Subscribe]ボタンを押してください。しばらくすると登録したアドレスに確認のメールが送られてきますので、指示に従ってメールを返信してください。「Welcome in list nousbases」というタイトルのメールが送られてくれば登録完了です。

<http://lists.riseup.net/www/subrequest/nousbases>

軍事力・暴力のない世界を築くことは可能(か?)だ!

高里鈴代 ● 基地・軍隊を許さない行動する
私たちの会

広大な工場跡地にジュート布を敷きつめた数万人規模の野外集会場、木材で組み立てジュード布を貼り付けた大小無数の会場、それらをつなぐ道路に溢れた10万人の人びと。インド各地から数日かけて参加した人びとは、社会の貧困、抑圧と闘う人びとであり、また、世界中から反グローバル化、軍事化、家父長制、暴力など、政治、経済、社会的不正義と不平等に取り組む世界の民衆、組織が「もう一つ世界は可能だ」を合い言葉に集まった第4回WSF。すさまじい土埃も栄養剤だと吸い込みながら、閉塞状態にある沖縄の状況をかえるのは、世界を民衆が作りかえようとする運動に連動することだ、と確認できた。

国際反米軍基地会議は、コーディネーターのハーバート・ドセナさんが、米軍基地反対に取り組む運動体、活動家たちをつなぐメーリングリスト(nousbases)を事前に立ち上げことが、ムンバイでの集会に34カ国120名余の参加につながったと思う。米軍基地を世界地図に印して見ると、いかに地球規模で分布されているかが明白で、南米での麻薬撲滅対策、水問題など、ソフト政策にいたるまで米国軍事力の介入は多様だ。強制移住させられたディエゴ・ガルシアの人びとが、今年こそ島に戻りたいと闘っている一方で、旧ソ連のキルギスタンに、国民の合意もなく簡単に米軍駐留が決まった、など。そして米国は、今、新たな脅威に対応するための総合的な再編成計画に着手する。今後の連携のあり方に、「もう一つの世界へ」の展望がかかっている。3月20日を国際反戦で国際反戦デモへの積極的

な参加がまず確認された。

APAの企画した「9・11以降の米軍基地と女性への脅威」ワークショップは、司会のニガットさん(パキスタン)の関係するグループによるパキスタンの歌と踊りで始まり、また、フィリピン・ミンダナオ女性によるパフォーマンスで閉じたが、軍事化と女性への脅威について、真の安全保障とは何かを米国、韓国、沖縄、パキスタン、カシミールの現状が報告された。パネリスト間で今後のネットワーク、共同行動が話し合われたのをどう日本側からも取り組めるか、課題であり期待でもある。

5日間大小様々なワークショップに参加したが、PP研でも1998年に招いたドイツのマリア・ミースさんに偶然会い、彼女たちの「女性と公共権の保障」ワークショップに飛び込んだ。13カ国から18人の有機農業、助産婦、エコフェミニスト、平和運動、研究者など生活・問題の多彩な女性との意見交換からは、基地跡地利用にもつながる、豊かな社会を作る視点を得た。インドの女性村長は、きれいな水は本来村民の権利だが、彼女の村にも世銀の融資を受けP.P.P. (Public Private Partnership) の水の企業化(民営化)が迫っていると訴えていた。グローバリゼーションと軍事化が公共権の侵食し、水、土地、すべてが商品化されている現状から、どう公共権を取り戻していくか。どう共有・主権・自治を確保していくか、まさに今の日本の状況であり、自分が生きている地域社会をどう築くかに直結する課題であった。

世界社会フォーラム国際評議会参加報告

小倉利丸●APAジャパン

WSFの国際評議会にオブザーバーとして参加しました。その簡単な報告です。

世界社会フォーラムは、開催地の主催団体(3回目まではブラジルの組織委員会、今回はインドの組織委員会)、事務局(ブラジルの組織委員会)の他に、第1回の世界社会フォーラムの開催の際に世界各国からWSFに参加した主要メンバーによって、国際評議会 International Council (IC) が設置された。ICは、参加メンバーが5大陸の主要な反グローバル化運動をになってきた団体等の代表からなっていることもあり、WSFの基本方針を策定するもっとも中心的な協議体になっている。毎年2回程度開催されている。ICの会議にはだれでも参加でき、発言もできるが、議決権は正式メンバーのみである。以下に述べるように、ICの参加メンバーの見直し等、IC自身の運営についてもいくつか解決すべき課題がある。

国際評議会は1月22日と23日の2日間にわたって開催された。参加者の自己紹介とWSF 2004についての感想などの意見交換があったのいち、議題に入った。

議論された内容は主としてWSFの運営に関わることで反戦平和運動など運動の内容に関わる議論が主要なものではないが、いくつかAPAにとっても大切と思われる論点

をピックアップしておく。

はじめてWSFに参加した人たちはその参加者の規模に大きな感動を覚えるようだが、WSFそれ自体が「もう一つの世界」を創造するためのプロセスではなくそれ自体が自己目的化している側面があるのではないかという危惧が出された。

イベントそれ自体が巨大化し、ここの自主企画が十分にその当初の役割を達成できているかどうかについて危惧されるという意見も出た。「もう一つの世界は可能だ」と言い続けるだけでは済まされない状況がある一方で、ではどのようにすれば「もう一つの世界」が可能かについての具体的な戦略や見通しが出せていないというある種のジレンマがICにもあるようにみうけられたが、具体的にフォーラムの持ち方をどのように変えるかについては、提案はできなかった。

とくにインドでは、国内の政治運動の動向も反映して、WSFに対する対抗フォーラム、ムンバイレジスタンス(MR 2004)が開催された。WSFの参加者やアルダンティ・ロイのようなインドの知識人は両方にゲストとして招待されるなど、重なる部分も多くあったために、インド国外の参加者でインド国内事情に精通していない者にとっては理解しにくい状況があった。「WSFと基本的に共通する趣旨でなぜもう一つのイベントが開催されたのか」といった疑問も海外のICメンバーからは出されていた。他方で、WSFが権力の問題を十分に捉えきれていないのではないか(つまりは体制選択問題を棚上げにしているのではないか)といった批判も出された。

こうした議論がICで一定の結論にまで集約されることはなかったが、WSFが抱えている現状として今後WSFに関わる上でも重要な課題となると思う。

なお、この他、ICのメンバーの見直しや、ICに設置されているいくつかの専門委員会の相互連携、途上国からの参加助成(連帯基金)の運営などについても議論されたが、これらすべてが結論がでないまま次回のICでの継続審議となった。

次回のICは4月上旬にイタリアで開催予定である。

※付記

もう少し詳細な報告を世界社会フォーラム連絡会のメーリングリストに投稿しました。下記をご覧ください。

http://www.jca.apc.org/wsf_support/messages/953.html

もう一つの世界を「可能にする」ために!

第4回世界社会フォーラム報告会

日時: 3月7日(日) 午後1時半より

場所: 早稲田大学理工学部(大久保キャンパス)
62W号館大会議室(部屋番号62W-1-07)

主催: ピープルズ・プラン研究所

(tel/fax: 03-5273-8362 e-mail:
ppsg@jca.apc.org)

APAジャパン 2003 年度会計報告

●収入

前期よりの繰越金	313,279
前期よりの繰越金（米ドル）	US\$1,000
維持協力費	237,000
イベント参加費	25,200
パンフレット販売	6,000
国際交流費	90,000
カンパ	2,000
雑収入	550

①収入合計 674,029
US\$1,000

●支出

送料	81,610
会場費	68,229
印刷費	56,979
コピー代	7,200
機器備品使用料	8,090
交通費	40,000
イベント賛同金	3,000
国際交流費	123,129
国際交流費（米ドルによる支出）	US\$755
雑費	70

②支出合計 388,307
US\$755

次年度への繰越金（①－②） 285,722
US\$245

世界社会フォーラム特別会計収支報告

●収入

緊急カンパ（計 26 人）	1,007,000
①収入合計	<u>1,007,000</u>

●支出

小倉利丸沖縄行き旅費・滞在費	61,600
高里鈴代旅費・滞在費	179,720
笠原光旅費・滞在費	146,070
雑費（ビデオ機材、印刷費など）	16,345
Anti-War Assembly へのカンパ	21,920

②支出合計 425,655

収支（①－②）※ 581,345

[換算レート: 1ドル = 109.60円、1ルピー = 2.5円
(2004年1月30日現在)]

※ご協力ありがとうございました。残金はWSFのフォローアップを含めた国際交流費としてAPAジャパンの会計に繰り入れます。

◆ 集会案内 ◆

3月13日（土）

**「自衛隊はイラクへ行くな！殺すな！
殺されるな！即時撤退を求める対防衛
庁抗議行動」**

◎日時：3月13日（土）15:00 集合、15:30 デモ出
発◎場所：外濠公園（JR市ヶ谷駅すぐ横、私学会館
手前）◎主催：同実行委〔連絡先：新しい反安保行
動をつくる実行委（03-5275-5989）〕

3月20日（土）

**「WORLD PEACE NOW3.20 世界の人々と
ともに――終らせようイラク占領！
撤退させよう自衛隊！」**

◎日時：3月20日（土）13:00～◎場所：日比谷
公園野外音楽堂◎主催：WORLD PEACE NOW 実行委員
会〔連絡先：許すな！憲法改悪・市民連絡会（03-
3221-4668）他〕

◆ 2004 年度維持協力費納入のお願い

APAジャパンの財政は、参加した個人、団体の維持協力費で運営されています。維持協力費は年間 1 口 2000 円（団体はできれば 2 口以上）で、会計年度は暦年と同じ 1 月～12 月となっております。2003 年度の会計報告は左記に掲載させていただきましたが、ニュースレターの定期発行を含めて今後ともさらにアジアの反戦運動に関する情報交流の機能を強化していきたいと考えております。引き続き2004年度も協働者として維持協力費を納入いただけるようお願い申し上げます。

また、ネットワークをさらに広げていくために、ぜひお知り合いをご紹介ください。事務局にご連絡いただければAPAジャパンに関する資料を送らせていただきます。

◆ 『アジア平和連合（APA）設立総会報告集』

2000 年にフィリピン・マニラで開かれたAPA設立総会の報告集です。「アジアにおける平和への闘い――アジア平和連合設立総会宣言」など、APAに関する基本的な資料をまとめています。頒価 1 部 700 円ですので、ぜひご活用ください。



